

いつもお世話になり ありがとうございます。
 ございます。

石井ひでたけ

です！

石井ひでたけホームページ
<http://www.ishiihidetake.info>

みるみる 通信



兵庫県議会議員

石井ひでたけ県政報告

vol. 47 2012年3月号

まっすぐに ひたむきに
 県政へ 全力投球



発行元: 石井ひでたけ事務所

For The Future

*** 2月定例会一般質問で登壇!! ***



～もっと身近に県政を～

皆様、こんにちは。季節の変わり目ですが、おかわりございませんか？

2月17日から始まった第312回2月定例会も中盤から終盤にさしかかり、現在、平成24年度の県予算を審議する予算特別委員会が設置され、日替わりで部局ごとに審査が行われております。前回の「みるみる通信Vol.46号」でご報告のとおり、今定例会では2月28日に一般質問に登壇いたしました。今回は3期目ということもあり、あえて地域課題についての質問は避け、予算議会ということもあり、予算に関わることを中心に質問いたしました。今回その質問の項目とその答弁要旨を記載いたしましたので、ご覧ください。また、ホームページからはその時の質問の議会中継もご覧になることができるようにアップいたしておりますので、私のHP (<http://www.ishiihidetake.info>) にアクセスし感想などございましたらお聞かせください。尚、地域課題等についてはその都度、これからもしっかりと関係部局等との調整ややり取りをいたします。地元では卒業式のシーズンを迎え、特に私の事務所前は神戸学院大学ですので、より一層、卒業を意識してしまいますが、4月にはまた、新しい新入生を迎え、この街が益々、活気づいていくものと確信しています。

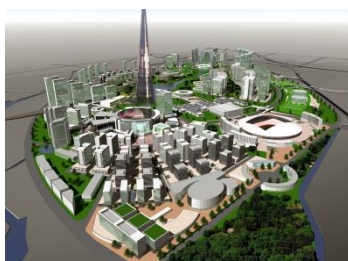
桜の咲く季節を楽しみにしながら、元気いっぱい県政に全力投球してまいります。



知事の考える「関西の復権」について

Q. 関西の復権を図り、日本再構築の礎を作ろうとするものである「国家危機管理国際都市構想(NEMIC構想)」が議論されている。

そこで関西復権と創造を目指した関西広域連合の連合長でもある井戸知事の考える「関西の復権」とはどのようなものなのか。



(NEMIC構想イメージ図)

A. 昨年末には「関西イノベーション国際戦略総合特区」の指定を受け、関西一丸となった取組が進んでいる。あわせて、関西3空港や阪神港のさらなる有効活用を図り、アジアのハブ機能を高める。関西の持つ強みと特徴を活かしながら、広域計画を実行するとともに国の出先機関の移管を実現し「関西の復権と創造」めざす。(井戸知事答弁)

関西広域連合の将来への懸念について

Q. 財政状況の異なる構成自治体の中、「成長する広域連合」に対して際限なくお付き合いするのではなく、財政的にも一定の歯止めをかけていく必要がある。

A. 府県の類似事務の見直しを検討する。国出先機関の移管を受けて実施する事務は国からの財源措置を伴うものと考えている。構成府県に大きな財政負担を新たに強いことにはならない。むしろ二重行政の解消で効率的な行政体制へ転換が図られる。

(井戸知事答弁)

* 月曜 県政相談室 開催中 *

1月から伊川谷事務所において月曜県政相談会を開催しています。県政に対するご意見・ご要望等ございましたらお気軽にお立ち寄り下さい。なお、公務等で不在のときもございますので、開催状況については私のホームページの掲示板でご確認に
 なられるか、事務所までご連絡下さい。☎978-0667
 (原則 毎週月曜日 午前10時～正午まで)

行財政構造改革の取組の検証について

- Q. 県民に新たな負担が生じないようにしていくためには、過去のしがらみの中で手つかずの聖域化した施策の検証や地域のしがらみの中で進めようとする施策の検証に取りかかる必要がある。
- A. 予算編成にあたっては事業をゼロベースで見直している。今後も中期財政フレームや社会保障と税の一体改革など国の動向、地方分権の進展などの社会情勢の変化、県民ニーズの的確な把握に心がけ、不断の見直しで、県民の夢や希望が実現できる兵庫づくりに取り組む。
(井戸知事答弁)

神戸市との連携による効率的な行財政運営について

- Q. 効率的な行財政運営を進めていくため、県と神戸市の関係も二重行政の存在を前提に、知事、市長の協議を踏まえた検討機関を設けて、連携を着実に進めていくことが必要だ。
- A. 新年度に設置する「県から市町への権限移譲検討会議」において、県と神戸市との機能と役割、さらには連携、権限移譲などについて検討・整理し、それぞれが効率的・効果的な行政サービスが提供できるよう努める。(荒木企画県民部長答弁)

新規就農者の育成と定着について

- Q. 新規就農者の確保・育成と、その定着は喫緊の課題。5年後、10年後の目標をどのように見据え、新規就農者の定着に向けたフォローアップをどう行うのか。
- A. 10年後の担い手の姿として、農業で生計を立てるいわゆる専業農家や集落営農組織などの担い手に、農地の6割を集積するものと展望する。従来は4割だったが6割に拡大するこの目標に向けて、技術指導のみならず経営面においても、新規就農者の発展段階に応じた、心寄り添うきめ細かな支援を行う。
(谷口農政環境部長答弁)

神戸マラソンの開催に向けた取り組みについて

- Q. 第1回神戸マラソンが無事終了した。次回以降も大会を継続させていくためには、抑えられる経費は抑えていかなければならない。そこで、次回以降の開催に向けた取り組みは。
- A. 約60億円の経済波及効果など第1回としては大成功した。一方、財源の確保や運営方法の工夫改善も必要。課題解決を図り市民・県民の誇りとなる恒例行事になるよう取り組む。(大西教育長答弁)



<第1回神戸マラソン完走>
自分でも体験しながら今後とも、兵庫のスポーツの振興に取り組みます

編集後記

花粉症の私にはつらい季節となりましたが、一雨ごとに春の訪れを感じています。

今回号を発行するにあたって、シンプルさにこだわってみました。以前から「字が小さい」とか、「文字が多すぎる」とのご指摘を受けておりましたので、思い切って、一般質問の内容だけに特化しました。いろいろ試行錯誤しながら、より親しみの持ていただける紙面作りをしてまいります。今後ともよろしくお願いいたします。

